

第4分科会 道徳科における教材の選択と活用

助言者 岩見沢市立東光中学校長 河村 克也

1 小学校提言『地域素材を生かした教材の開発』について

本提言は、地域に実在する登場人物を主人公とした教材開発により、挨拶を大切にする心の育成を目指した実践です。主人公「ひろこ」さんへの自我関与を通して、道徳的価値に迫ろうとしたもので、授業構想から実践まで、入念に準備されたことがわかります。

学習指導要領、「道徳科の教材に求められる内容の観点」では、「郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるので、地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」(解説 p101)とされています。本提言は、写真文化都市づくりを推進している東川町での実践であることから、道徳科の教材開発で求められる要素を十分に備えています。

自作の読み物資料は、学年の発達段階や内容項目との関わりなど、大変難しいものでありますが、本提言では、授業の終末で実在の登場人物「ひろこ」と児童が対面する場を設定し、小学校第3学年の発達段階を踏まえた授業構想になっています。特に、内容項目の「礼儀」について学習指導要領では、第3学年及び第4学年について、「家庭や地域社会での日常の挨拶、学習や給食の際の態度、校外学習など見学先での振る舞いなどについて考えさせることも大切である」とされていることから、町の人々との心のふれあいや笑顔に触れる場面を通して、主人公の気持ちの変化を考える展開は、とても練られた教材と言えます。

教材の作成にあたり、どの程度の時間を要したかはわかりませんが、児童の実態把握から年間指導計画の見直し、教材作成、実践、評価、改善までを考えると、多くの時間が必要であったと推察されます。さらに、提言では ICT の活用も研究の一つの柱として位置づけられ、道徳科における ICT の効果的活用に向けた実践がますます広まることが期待されるところです。(44 字×20 行)

2 中学校提言『現代的な課題と向き合う教材の活用』について

Society5.0 の時代を迎え、生徒を取り巻く環境は大きく変化を遂げています。学校では GIGA スクール構想により 1 人 1 台端末が整備され、ICT が教育現場に浸透してきたことから、情報モラル指導の重要性はますます高まっています。

さて、新学習指導要領の改訂にあたり、情報モラルに加えて社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いが盛り込まれました。その解説によると、情報モラルと現代的な課題に関する指導では、情報社会の倫理、法の理解と遵守といった内容を中心に扱うことが示されています。情報モラルや SDGs 教育の視点では、問題解決的な学習や討論を深めたりする学習により、課題を自分との関係で捉え、その解決に向けて考え続ける意欲や態度を育てることが大切です。

提言における情報モラルの実践では、道徳科のねらいと、学級活動や総合的な学習の時間のねらいを整理し、SNS 上のコミュニケーションにおける正しい判断の在り方について授業を展開しています。内容項目を「相互理解、寛容」とし、それぞれの個性や立場を尊重し、様々なものの見方や考え方があることを理解しながら、SNS の落とし穴について考えることができるように構成されています。道徳科のねらいを達成する過程で情報モラルの指導を「充実」させるというとても練られた実践です。

持続可能な社会づくりについての実践では、SDGs を題材として地球規模の問題を主体的に考える機会を位置づけています。内容項目の「国際理解、国際貢献」は、現代的な課題と関連の深い内容であり、中学生という発達段階では積極的に取り上げることが求められるところです。

さらに、「共生社会」の実現に向けた実践では、ユニバーサルデザインの視点が授業に生かされ、道徳科だけではなく、あらゆる教育活動に広がることを期待されることです。(44 字×20 行)